

1-(2) 史跡岐阜城跡山上部の発掘調査成果について

(1) 調査の概要

石垣や瓦等の確認を目的に昨年度よりも対象面積を拡大し（約 10 倍）、山上部 3ヶ所で発掘調査を実施。各調査区で成果が得られ、特に天守閣西側では大きな発見があった。

所在地：岐阜城山上部

調査箇所：①天守閣西側 ②二ノ門周辺

③資料館南側 ※中腹部 1ヶ所は現在調査中

調査期間：令和元年 10 月 31 日～令和 2 年 1 月末（予定）

調査面積：約 1,410 m²（清掃範囲を含む対象面積）



調査位置図

○昨年度の調査(約 140 m²)
二ノ門周辺を調査
→信長期に築かれた石垣や岐阜城で初となる鉄の矢じりが見つかるなど、貴重な発見があった。

(2) 天守閣西側の調査成果

信長期に築かれた天守台石垣を初めて発見

- 天守閣西側の調査区で**信長期**の天守台北西隅^{すみ}の石垣を確認した。天守台石垣は明治 43 年（1910）の初代復興天守建設の際に積み直されたため、信長期の石垣はほぼ残っていないと推定されていた。岐阜城で信長期の**本物の天守台石垣**が見つかるのは今回が初めて。
- 見つかった石垣は永禄 10 年（1567）信長入城後の石垣の特徴をもっている。
- 1600 年の廃城時に埋められた瓦がそのままの状態で見つかる。

→安土城で完成したとされる**天守の起源**を考えるうえで重要な発見。



調査中の石垣



見つかった天守台石垣

○石垣の概要

- 確認した長さ約 1.8m、高さ 0.7m 3 段残存
- 隅の根石石垣（一番下の石）を抑える石材が 1 個出土。
- 戦国時代に整地された層の直上に築かれている。
- 石材の合わせ目が奥にあり、隙間には間詰石^{まづめいし}が詰められている。また、石垣は傾斜を付けて積み上げられている。

○岐阜城の天守

- 江戸時代の絵図「稲葉城趾之図」に今回見つかった石垣の場所に「天守臺（台）」と書かれている。
- 1600 年の岐阜城の戦いで福島正則^{ふくしままさのり}が書いた書状に「天主^{てんしゅ}」と書かれている。少なくともこの頃には天守が存在していた可能性が高い。

(3) その他の調査成果

二ノ門周辺と資料館南側で信長期の石垣を確認

- ・二ノ門周辺で絵図（「いなぼじょうしのず稲葉城趾之図」）に描かれている信長期の石垣を確認。
- ・資料館南側で絵図に描かれていない信長期の新たな石垣を確認。

→昨年調査成果と合わせて、岐阜城の構造解明に繋がる発見。



二ノ門周辺の石垣



資料館南側の石垣

○二ノ門周辺石垣の概要

- ・確認した長さ約 1.4m 高さ約 0.5m 最大 3 段残存
- ・天守台石垣同様に石材の合わせ目が奥にあり、間詰石が使われる信長入城後の特徴を持つ石垣。

○資料館南側石垣の概要

- ・石材の大きさ 縦約 0.6m 横約 1.0m
- ・石材の裏側に裏込石（うらごめいし石垣を安定させ排水を高める石）を確認。過去の分布調査で見つかった石材が石垣であることが明らかとなった。



見つかった裏込

○中腹部の調査については改めて報告をさせていただきます。

(4) 現地公開について

令和2年1月14日（火）～1月18日（土）

10:00～12:00 13:00～15:00

雨天中止（史跡岐阜城跡 twitter、岐阜公園内発掘案内所でご確認下さい）

担当者が現地で**随時説明**します。直接現地までお越し下さい。

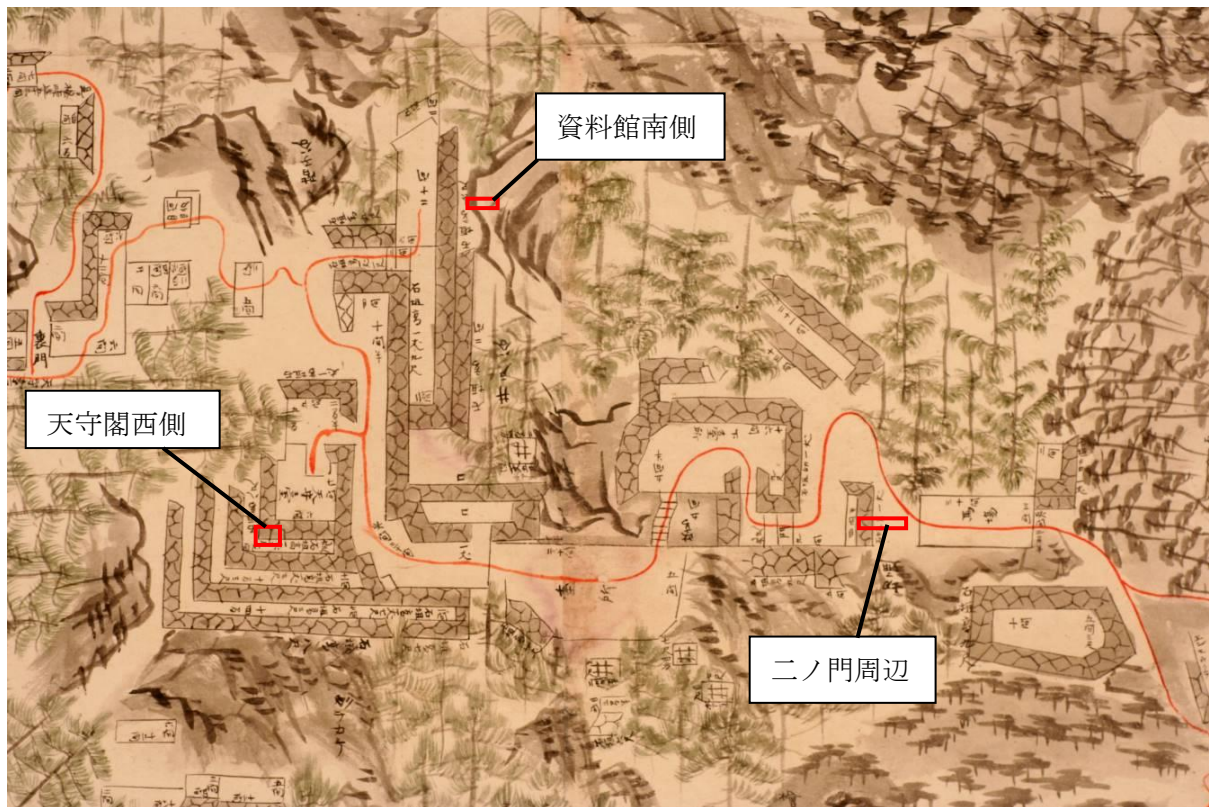
大河ドラマ放送の年に岐阜城の天守台石垣が初めて見つかる大発見が重なったことは**貴重な出来事**。ぜひ一人でも多くのかたにお越しいただきたい。

有識者の評価

中井均氏（滋賀県立大学教授 日本城郭史）

今回、信長期の可能性のある天守台石垣を初めて確認できたことは、日本の城郭の変遷・天守の成立を考えるうえで大きな意義がある。

確認された石垣は「稲葉城趾之図」にも描かれており、絵図の信頼性を再確認できたことも大きい。天守周辺の更なる発掘により信長の城造りの実態が解明されることを期待したい。



「稲葉城趾之図」と今回の調査位置